The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

古注釈チュールニにおける聖典本文の読み
—— Āyāraṅga-sutta と Suttanipāta ——

渡　辺　研　二

1．はじめに

ジャイナ教と仏教の比較研究の先駆者中村元先生は「ジャイナ教は仏教と同時代に，ほぼ同じ地方で，同じ階級すなわち王族の出身者であるマハーヴィーラによって創始され，同様な社会的基盤において生育し，相似た発展過程をたどり，教理・神話・伝説・用語にも相似たものが少なくないし，また教団の構成も仏教と非常に類似している．ジャイナ教は仏教の姉妹宗教と見なされている．故にジャイナ教の思想と対比することによって，仏教の特徴が特に明確に理解できるであろう」と大著『思想の自由とジャイナ教』の中で述べておられる．ここでは中村元先生の意図されるジャイナ教の聖典と仏典の共通伝承の比較に注目して，ジャイナ教最古の聖典『アーヤーランガ・スッタ』の一節と最古の仏典『スッタニパータ』の一節の比較を試み，あわせてその意義について少しく論じたい．

共通の伝承ということに関してジャイナ教においても，仏教においても繰り返して「わがものという所有の観念」を捨てるべきであるということが古い聖典に共通に説かれている．中村元先生は，つづけて仏教では「経典の中の最古層に表明されている無我説によると，何ものかを「わがもの」(mama)「われの所有である」と考えることを排斥している．そうして修行者はまず「わがもの」という観念をすてねばならぬという」として仏教の無我説の源流として，「わがものと見なすなかれ」ということを取り上げ，これをジャイナ教と同源であると指摘されている．このような見解に導かれて，「わがもの」という観念を棄てねばならぬ，ということを中心にして，次のような並行表現を指摘することができる．

2．Āyāraṅga-sutta 1.2.6.2 と Suttanipāta 809 との比較

ジャイナ教	仏教
je mamāiya-maiṃ jahāi, se jahāi mamāiyaṃ,	sokaparidevamaccharaṃ

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

se hu diṭṭha-pahe muṇī, jassa n' tthi mamāiyaṃ
(Āyāraṅga-sutta 1.2.6.2; ed. Āgamodaya Samiti 142b)
わがものという考えを捨て去る人は，わがものということ自体を捨て去る．わがものということが存在しない人，そのような人は，道を見た聖者である．（渡辺試訳）

na jahanti giddhā mamāyite,
tasmā munayo pariggahaṃ
hitvā acariṃsu khemadassino
(Suttanipāta 809)
わがものとして執着したものを貪り求める人々は，憂いと悲しみとものおしみとを捨てることがない．それ故に諸々の聖者は，所有を捨てて行なって安穏を見たのである．（中村元訳）

「わがもの」ということに関して『アーヤーランガ・スッタ』『スッタニパータ』共に「わがもの」とみなす執著を離れ，一切の所有を捨て去るという思想が表明されている．所有を捨て去った人がまさに聖者（ムニ）なのである．そしてこの思想はジャイナ教の五大誓戒のうちの第五である無所有の戒律の精神にほかならない．

また，詩節の後半に見られるジャイナ教の伝える聖典の「所有にこだわらない聖者は道（解脱道）を見た」と仏典の「所有を捨てた聖者は安穏を見た」も並行表現であろう．つまり，ジャイナ教の se hu diṭṭha-pahe muṇī は「そのような聖者は，［解脱への］道を見た」という意味になり，仏教の Suttanipāta 809「聖者たちは，安穏を見たのである」と同一の意味になる．「安穏」は注釈によれば涅槃のことであると説明されている．(khema = nibbāna, Paramatthajotikā, p.534) 一方，軌を一にしてジャイナ教の古注釈チュールニは「道」pahe を mokkhapaho（解脱への道）と解説している．これから見ると，「安穏」も「解脱への道」も同じことを言っていると思われる．またインドの流布本を代表するアーガモーダヤ・サミティ版の読み se hu diṭṭha-pahe muṇī はシュブリング先生の版では se hu diṭṭha-bhae muṇī (p.12, l.6) と読んでいる．この読みは，チュールニ (p.92) が se hu diṭṭha-pahe muṇī（聖者は解脱への道を見た）を『アーヤーランガ・スッタ』の本文として読み se hu diṭṭha-bhae muṇī（聖者は恐怖を見た）を異読として取り上げていることに対応し，さらにチュールニとその異読の読みに対応している．このようにシーラーンカのヴリッティの読みよりも，チュールニの異読の方を本文の読みに採用することはシュブリング版としては異例のことである．最近の学者の研究によると，古注釈

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

チュールニには，現存写本に残された異読やヴリッティ（梵語）の伝える読みよりも古くて良好な伝承を伝えていることが徐々に明らかになってきた．

さらに，「恐怖を見た聖者（ムニ）」(diṭṭhabhae) の読みに関して，シュブリング先生は Āyāraṅga-sutta 1.5.3.3 (p.23, l.14) に se hu ege saṃviddha-bhae muṇī（かのある一人の恐怖を所有したムニ）という本文があり，ここの saṃviddha（結合された，所有した）は -saṃdiṭṭha（見られた）の古い間違いであろうと，訳注 (Worte Mahāvīras, p.93) のなかで述べている．そうすると saṃviddhabhae muṇī は，diṭṭhabhae muṇī（恐怖を見たムニ）と同じ意味を伝える読みになる．

3．ジャイナ教聖典 Āyāraṅga-sutta 1.2.6.2 の様々な異読について

シュブリング先生の校訂本の本文の「恐怖を見た」(diṭṭha-bhaya) という表現は関連表現を含めると Āyāraṅga-sutta 第 1 部には 3 回現れる．その読みに関する状況を把握するためにチュールニとヴリッティの伝える異読の状態を列挙すると次の通りである．

チュールニ (C) の伝承

C.92: チュールニの本文に se hu diṭṭhappahe muṇī と読み，異読として paḍhijjai ya diṭṭhabhae muṇī と読んでいる．その中で「道を見た聖者」というときの paha（道）は mokkhapaho（解脱道）の意味であると注釈している．

C.113: チュールニの本文に se hu diṭṭhapahe muṇī と読み，mokkhadiṭṭhapaho bhavati と注釈し，異読として diṭṭhavahe と se hu diṭṭhabhae muṇī を挙げている．

C.117: チュールニは本文に se ha saṃviddhabhae muṇī と読み，異読として ahavā saṃviddhapahe と読んでいる．ただしシュブリング先生の推測した saṃdiṭṭha- の読みは見られない．

ヴリッティの伝承（シーラーンカの注釈）(S)

S.142b: 本文に se hu diṭṭhapahe muṇī と読み，異読として yadivā dṛṣṭabhayaḥ と読んでいる．

S.161a: 本文に se ha diṭṭhabhae muṇī と読み，異読として -pahe muṇī は見られない．

S.212a: 本文に se hu ego saṃviddhabhae muṇī と読み，異読として ahavā saṃviddhapahe と読んでいる．ただ注釈の解説の中で saṃviddhabhayo dṛṣṭabhaya ityarthaḥ とあり，シュブリング先生の saṃviddhabhae は saṃdiṭṭhabhaya の古い間違いとの推

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

測を支持する．

4．「恐怖を見た聖者（ムニ）」の表現について

さて，ここにいう「恐怖を見た聖者」の「恐怖」とは何であろうか．それを理解するヒントは『スッタニパータ』にあると考えられる．すなわち「アッタカヴァッガ」第15経「武器を執ること」は，ブッダ自身による恐怖の体験を述懐することから始まっている．そこには，現実にブッダの感じた恐怖が生々しく語られている．

> 殺そうと争闘する人々を見よ．武器を執って打とうとしたことから恐怖が生じたのである．わたしがぞっとしてそれを厭い離れたその衝撃を宣べよう．(Suttanipāta 935)（中村元訳）
> 水の少ないところにいる魚のように，人々が慄えているのを見て，また人々が相互に抗争しているのを見て，わたしに恐怖が起こった．(Suttanipāta 936)（中村元訳）

恐怖の生じた原因が，人々が武器を執って互いに争うことである，その元々の原因が「所有」(pariggaha) であるというのは，まさに無所有を標榜するジャイナ教の主張するところである．ジャイナ教最古の聖典『アーヤーランガ・スッタ』1.1がジャイナ教の根本戒律であるあらゆる生物に対する不殺生を詳論し，つづいて『アーヤランガ・スッタ』1.2が，さまざまな生物に対する殺生の原因となる所有の獲得および蓄積を捨て去ることを主題としていることと対応する．また，これについて『スッタニパータ』にいう．

> （何ものかを）わがものであると執着して動揺している人々を見よ．（かれらのありさまは）ひからびた流れの水の少ないところにいる魚のようなものである．これを見て，「わがもの」という思いを離れて行うべきである．諸々の生存に対して執着することなしに．(Suttanipāta 777)（中村元訳）

比喩の「流れの水の少ないところにいる魚」は仏教とジャイナ教が共通に伝える比喩である．また，さらにその恐怖の原因が暴力であると明確に『ダンマパダ』にいう．すなわち，

> すべての者は暴力におびえ，すべての者は死をおそれる．己が身をひきくらべて，殺してはならぬ．殺さしめてはならぬ．(Dhammapada 129)（中村元訳）
> すべての者は暴力におびえる．すべての（生きもの）にとって生命は愛しい．己が身をひきくらべて，殺してはならぬ．殺さしめてはならぬ．(Dhammapada 130)（中村元訳）

さらに，詳しくジャイナ教の『アーヤーランガ・スッタ』にいう．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

生きものは生きものを苦しめる．見よ！　世間における大いなる恐怖を．生きものはじつに苦しみが多い．人間は愛欲に執着している．かれらは無力な脆い身体をもって破滅におもむく．（Āyāraṅga-sutta, p.27, ll.27–29）（渡辺試訳）

5．『義足経』から見た「恐怖を見た聖者」と「安穏を見た聖者」の二つの異読について

『スッタニパータ』は現存パーリ語聖典のうちでは最も古いものであると言われている．そのうちでも第4章（アッタカヴァッガ）は特に古いが，この第4章だけが『義足経』として漢訳されている．そこでは，ここの Suttanipāta 809 は，

既悲憂転相嫉　復不捨貪著愛　尊故断愛棄可　遠恐怖見安処（既に悲憂して転相に嫉み，復た貪著の愛を捨てず，尊きひとは，故に，愛を断ち可とするものを棄て，恐怖を遠ざけ安らかな処を見る）『義足経』巻上（『大正』4，179上）

と訳されている．漢訳の原典がどのようなテキストであったかは不明であるが，『スッタニパータ』の「安穏を見たのである」(khemadassino)（Suttanipāta 809d）は，『義足経』では「遠恐怖見安処」（恐怖を遠ざけ安らかな処を見る）に相当しているように見える．ジャイナ教の聖典に異読として現れる読み「恐怖を見た聖者」と「安らかな処」を解脱とみれば「解脱道を見た聖者」に対応しているようにみられる．

さらに仏教の伝承の中で「恐怖を見た聖者」と「安穏を見た聖者」の二つの読みは，それぞれ古い仏典の中に別々に見出すことができるが，一つの詩節の中に同時に見出せるのは珍しい．例えば『ダンマパダ』に，

いそしむことを楽しみ，放逸におそれをいだく（bhayadassivā）修行僧は，堕落するはずはなく，すでにニルヴァーナの近くにいる（nibbānass' eva santike）．（Dhammapada 32）（中村元訳）

このように見てくると「恐怖を見た」という形容詞と「安穏を見た」という形容詞がつく聖者は，古くは並列して存在していた読みであり，これがジャイナ教聖典の古注釈チュールニでは，異読の伝承という形で伝えられ，仏典では本文の中に別々に伝えられたということではないかと考えられる．つまり古代の聖者は恐怖を見て出家し，解脱道を見て修行したということの反映がテキストに残されているのではないだろうか．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

〈参考文献〉

中村元先生の関連文献

『思想の自由とジャイナ教』（中村元選集［決定版］第10巻），春秋社，1991年.

『原始仏教の思想（上）』（中村元選集第13巻），春秋社，1970年.

『ブッダのことば――スッタニパータ――』中村元訳，岩波文庫，1984年.

『ブッダの真理のことば・感興のことば』中村元訳，岩波文庫，1978年.

ジャイナ教聖典の古注釈チュールニ関連の研究文献

筆者は，ジャイナ教聖典研究の新しい展開として，今までにジャイナ教聖典の古注釈チュールニの読みの重要性を示す実例を古聖典のなかから取り出す作業をしてきた．それが次の論文に論じられている．

1．「蜜蜂と托鉢僧――現存ジャイナ教白衣派古聖典本文の伝承――」『佛教学』第50号，仏教思想学会，2008年.

2．“Bee and Mendicant: The Two Different Versions in the Extant Jaina Āgamas.” ボレ教授記念論文集に所収予定.

3．「Dasaveyāliya-sutta の本文について――現存ジャイナ教白衣派古聖典本文の伝承――」『印度学仏教学研究』第57巻第2号，2009年.

4．「蓮葉と水滴――現存白衣派古聖典と仏教聖典の原伝承――」『印度学仏教学研究』第58巻第2号，2010年.

5．“Lotus leaf and Waterdrop: The Two Different Readings in the Old Jain Āgama and Buddhist Canon.” 国際サンスクリット学会京都大会論集（藤永・バルビル両教授の元で出版準備中）に所収予定.

6．「暴力に関わる表現について――現存白衣派古聖典の本文の伝承――」『ジャイナ教研究』第16号，2010年.

7．「アーガマにおける tri-yoga の定型表現――現存ジャイナ教白衣派古聖典の本文の伝承――」『印度学仏教学研究』第59巻第2号，2011年.

8．「古注釈チュールニ研究の意義――Āyāraṅga-sutta を中心にして――」『奥田聖應先生頌寿記念 インド学仏教学論集』に所収予定.

9．「古注釈チュールニにおける聖典本文の伝承――Uttarajjhāyā を中心にして――」『印度学仏教学研究』第61巻第2号，2013年.

10．「チュールニの伝える聖典本文――『スーヤガンガ・スッタ』を中心にして――」『ジャイナ教研究』第18号，2012年.

ジャイナ教聖典『アーヤーランガ・スッタ』関連文献

Ācāraṅga-sūtra: Erster Śrutaskandha. Text, Analyse und Glossar von Walther Schubring. Abhandlungen für die Kunde des Morgenlandes 12 (4). Leipzig: Brockhaus, 1910. シュブリング教授の批判的校訂版.

Worte Mahāvīras: Kritische Übersetzungen aus dem Kanon der Jaina. Von Walther Schubring.

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1926. シュブリング教授の独訳.

Leumann, Ernst. Review of *Worte Mahāvīras: Kritische Übersetzungen aus dem Kanon der Jaina*, by Walther Schubring. *Zeitschrift für Indologie und Iranistik* 7 (1929): 157–162 (=Ernst Leumann. *Kleine Schriften*. Herausgegeben von Nalini Balbir, 562–567. Stuttgart: Franz Steiner, 1998). シュブリング教授の独訳に対する書評.

Āyārāṅgasuttam. Ed. Muni Jambuvijaya. Jaina Āgama Series, no. 2 (1). Bombay: Śrī Mahāvīra Jaina Vidyālaya, 1976. 古写本を参照した画期的な最近のインド版批判的校訂本. ジャンブヴィジャヤ先生の前文と異読の解説に重要な情報が示されている.

Ācārāṃgacūrṇiḥ bahuśrutakiṃvadantyā śrījinadāsagaṇivaryavihitā. Malavadeśāntargataratnapurīya: Śvetāmbarasaṃsthā, 1941. ジナダーサのチュールニ. チュールニのテキストの読みに不安があるものの, 唯一の刊本としての重要性はかわらない. 上記のジャンブヴィジャヤ先生のテキストに示されたヴァリアントの注に載せられた本文と比較して用いることも必要.

Ācārāṅgasūtram, śrīśīlāṅkācāryavihitavivaraṇasamanvitaṃ. Bombay: Āgamodaya Samiti, 1916. シーラーンカの梵語による注釈を含む. インドの流布本を代表する刊本.

Ācārāṅgasūtram. Ed. Muni Jambuvijaya. Śrī Siddhabhuvanamanoharajainagranthamālā, no. 3. Ahmedabad: Śrī Siddhabhuvanamanohara Jaina Ṭrasṭ, 2008. シーラーンカの梵語による注釈の校訂版（本の情報と原本は都城工業高等専門学校の藤永伸教授より提供された）. ジャイナ教研究史上, 写本を利用した注釈の校訂本ははじめてのものである.

〈キーワード〉 チュールニ, ジャイナ教聖典,『アーヤーランガ・スッタ』,『スッタニパータ』

（大正大学非常勤講師）

NII-Electronic Library Service